

課題6 帰宅困難者

■現状（意見）

- ・避難所に行けばなんとかかしてもらえという意識を持っている人が多い。

■地区としての今後の取り組みの方向性

- ①帰宅困難者の対応についてルールを決める。

■各団体の今後の取り組みの方向性

【町会】

- ・松丘町会は、町会で定めた避難場所に帰宅困難者がいる場合には、可能な範囲で対応する。

■その時あなたは、どうしますか？

- ・災害時に協定を結んでいるコンビニなどを案内する。
→どこのお店を教えればよいか知っておく。
- ・ベンチのある公園、水のある場所
- ・勤めている人などは会社に泊まることを徹底してもらう。
- ・お寺や神社など避難所以外の場所の活用の可能性も考える。
→避難所の収容人数に限りがあるので。
- ・トイレを貸しているお店があったら案内できるようにしておく。
- ・松丘交番の近くの公衆トイレに案内する。
- ・避難所以外の水（給水タンク、井戸など）も活用する。
- ・けが人の最小限の対応
→次への案内
- ・子ども連れの方、高齢の方は落ち着くまで避難所にいてもらう。
- ・帰宅困難者の備蓄を徹底させる。（水くらいは準備してほしい）
- ・トイレに立ち寄り人が多いので、マンホールトイレを速やかに設置しておいた方がよい。
- ・企業に備蓄を依頼。
- ・地域避難者と帰宅困難者の両方を受け入れられる体制をはかる。
- ・各避難所で食料、水、などの備蓄の量を増やす方向で考えるべきである。
- ・桜小学校では、近隣の避難者と帰宅困難者の受け入れ場所を分ける。

課題7 在宅避難者の支援

■現状（意見）

- 在宅避難者への支援についての対策が練られていない。
- 在宅避難者がどのくらいいるかなどイメージができない。
- 在宅避難の際に何を用意しておくべきかわからない。
- 避難所に行けばなんとかしてもらえると意識を持っている人が多い。

■地区としての今後の取り組みの方向性

- ①在宅避難者にどのような支援が必要か考える。
- ②在宅避難者の対応方法について考える。

■各団体の今後の取り組みの方向性

【町会】

- 自助が大切だということを意識付けする。
→各家庭での備蓄や耐震測定など
- 在宅避難を続けている人への食料や飲料水、救援物資等の運搬方法、運搬する人を決めておく。

【集合住宅】

- 集合住宅内でお金を出し合って、水や食料の備蓄をする。

■その時あなたは、どうしますか？

- 判断は自主判断に任されている。
- 3.11では震度5弱で避難所は開設されなかった。
- 町会で現地対策本部を立ち上げる
(若林では無線を持っていて100名程度の防災担当が連携している。)
- 災害発生から避難所開設までのタイムラグをどうするか。
- 避難のみなのか、避難所生活者なのか区別しなくてはならない。
- 緊急時の防災連絡網を作る（個人情報との問題）
- 自助努力（1週間分の食料、水、衣料などの生活物資）の備蓄の必要性。
- 信頼できる情報が欲しい。
- 情報が不足しがち→どう共有するか
- 下水道使えないときなどアナウンス（情報共有）
- 在宅避難の可能性のある人を普段から知っておく。
- 町会全員が避難者カードを提出する。その際に（在）マークで在宅を示す。
- 学校の学区と避難所運営の区別。在宅避難の人は近くの避難所に申告する。
- 該当者を個人情報含めて確認する方法を行政で確立する。